

国際学会発表体験記

辻谷 真知子（東京大学大学院教育学研究科博士課程/日本学術振興会 DC1）

ヨーロッパ乳幼児教育学会（EECERA：European Early Childhood Education Research Association）は、保育・幼児教育に関する実践や研究の発表の場であり、ヨーロッパの毎年異なる国で、8~9月頃に開催されている。これまで4回参加したが、講演を聴いて学ぶだけではなく、多様な文化的背景の方々との交流ができることが魅力だと感じている。参加者の国籍は多岐にわたり、各々の母国語を持つので、英語での発表に緊張するのは日本人だけではないのだ、ということにも気づかされる。その中で一人ひとりが対等な参加者として尊重される場でもある。

私が特に印象に残っているのは、ある口頭発表会場でイギリス人の座長の方が終了の際に言われた「自分は英語が母語であるが、そうではない方々が、ここに来て発表されるという努力に敬意を表する」という言葉である。それまで私は、英語母語話者の発表や質問を聴き取れず、ついていけないもどかしさ、笑い声が起こっても一緒に笑えない寂しさ等を感じていたため、座長の温かい言葉に大きな安心を覚えた。また、その座長の方に限らず、これまで私が参加した中での発表時のやり取りでも、批判に終始せず他者の実践や研究を認め合って共に良くしていこうという温かい雰囲気を感じられ、「来年も頑張って参加したい」と思うことにつながってきた。知り合いになった参加者に翌年再会するのも楽しみの一つだ。

実際に発表する際は、ポスター発表と口頭発表がある。ポスターは、やり取りができる人数の多さや、何よりも参加者との関係のフラットさ、お互い理解できるまでじっくり時間を取れることなどに魅力があると感じている。一方で口頭発表は、自分の伝えたい内容をあらかじめ原稿にしてまとめた上で話ができること、また、同じセッションで発表した参加者とのつながりが深まることなども魅力的だ。海外では「あなたの園は」「あなたの研究は」という以前に「日本ではどうなのか？」という質問を受けることが多いので、日本の研究を発表することを念頭に置いて準備すること（具体的には、保育制度や日々の生活を説明できるようにすることや、様子が伝わりやすいように写真を多めに用いることなど）を心がける。発表会場では、お互い英語が不十分でもじっくりとコミュニケーションをとる中で、言葉だけでなく、保育中の子どもの写真など視覚に訴えるもの

も重要な手掛かりになる。

ところで、おそらくこの学会に限ったことではないが、海外の学会に参加すると、日本の学会の「当たり前」が覆されたり、予想外のことに慌てたりすることもある。

私は昨年イタリアのボローニャ大学で開催された **EECERA** でポスター発表をした。会場は屋外、中庭のような場所である。私のポスターはちょうど直射日光が当たっていて大変暑かった。ただ立っているだけでも汗が噴き出し、あまりの辛さに一度離れて日陰で休んでからポスターへ戻り、水分補給をしながらどうにか 1 時間半を過ごしたほどである。参加者間の交流を期待しつつ緊張していたものの、残ったのは、暑さに耐え抜いたという達成感であった。参加者は日陰に集中してしまっていたが、ただ一人、パリから来たという男性が立ち寄り、くすくす笑いながら、私のポスターの事例や分析（幼児間のやり取りや力関係についての内容）を「面白い」と読んでくださった。専門を尋ねると「いえいえ、ただの父親です」という答えで、学会参加者かどうかも分からずじまいであったが、私にとって、とても大切な思い出となった。

もちろん、大変なことばかり起こるのではない。楽しみの一つには、ランチや茶菓子がある（参加費に含まれている）。休憩時間になるたびに、ロビーや中庭のようなスペースで茶菓子や飲み物が用意される。出されるままに飲食してそれに慣れてしまうと、帰国してからお腹が空いて仕方がない。また、服装の自由度が高いのも、海外の学会の面白さだと思う。気温が高い国で開催されると、「ここはリゾート地か」と思うような格好の方々もいる。スーツやそれに準ずる格好をしていると、顔を見るまでもなく日本人と（お互い）分かるような気がする。いつも同じ場所にはわからない、「当たり前」を一つ一つの小さな出来事から気づかされる。

このような予想外の経験や、学会の雰囲気の違いは、その国の保育・幼児教育の歴史や文化や価値観と、背景で繋がっているように感じる。すぐにはわからなくても、日本に帰ってから、あるいは何度か参加してから、「ああ、そういうことか…」と気づくこともある。昨年はエクスカーションでレッジョ・エミリア市の施設や園の見学にも行くことができ、改めて実践の文化的背景を考えるきっかけをいただいた。今後も様々な気づきを得ながら参加し、視野を広げていきたい。